

「第6回スポーツ環境会議」議事録

平成28年2月9日（火）午前10:00～11:45

新宿区役所5階大会議室

1 出席者

1	間野 義之（学識経験者）	12	藤原 千里（公募委員）
2	今泉 清隆（区体育協会）	13	小柳 俊彦（新宿未来創造財団事務局長）
3	阿部 正幸（区スポーツ推進委員協議会）	14	山本 秀樹（生涯学習コミュニティ課長）
4	小菅 知三（区レクリエーション協会）	15	下杉 正樹（新宿未来創造財団等担当第一課長）
5	山田 和男（区町会連合会）	16	高橋 昌弘（新宿未来創造財団等担当第二課長）
6	徳堂 泰作（区障害者団体連絡協議会）	17	関本 ますみ（障害者福祉課長）
7	大塚 フジエ（区青少年育成委員会）	18	鈴木 浩司（高齢者福祉課）
8	山本 芳裕（区小学校PTA連合会）	19	小田島 妙加子（子育て支援課）
9	大嶋 英二（区中学校PTA協議会）	20	中川 誠一（健康推進課長）
10	三田 圭佑（スポーツ関連事業者）	21	佐藤 光子（みどり公園課）
11	関口 美緒（公募委員）	22	木城 正雄（教育調整課長）

欠席者 1名

辻 彌太郎（区高齢者クラブ連合会代表）

配付資料

【資料1】スポーツ環境会議設置要綱

【資料2】スポーツ環境会議委員名簿

【資料3】藤原委員からの情報提供

「平成27年度第27回東京都肢体不自由特別支援学校ハンドサッカー大会開催要綱」

2 事務局

生涯学習コミュニティ課

3 会議内容

(1) 開会

(2) 生涯学習コミュニティ課長あいさつ

1月31日に開催された新宿シティハーフマラソンについては、皆様のご支援もあって無事に終了できた。スポーツ環境整備方針を持続的・継続的に推進していくためのスポーツ環境会議も今回で6回目となる。今回は、前回の会議以降に皆様が取り組まれた活動内容や、今後予定されている取り組みなどの報告とともに、障がい者スポーツについて意見交換を行いたい。

また、平成28年度から実施する新宿区第三次実行計画では「スポーツ環境の整備」として、子どもから高齢者までが個々の目的やレベルに応じて、多様なスポーツ・文化活動に親しめる環境を充実していく予定である。

(3) 情報交換・意見交換（要旨）

ア 各団体・委員からの報告

- ・新宿区のスポーツ環境を変えていくためには、体育協会の組織力をより一層強化する必要がある。どのような団体においても高齢化が進み、若い世代の参加が少なくなっている。新宿区のスポーツを活気づけていくためには、体育協会がしっかりしなければならない。皆様のご協力をいただきたいと考える。
- ・レクリエーションという言葉の意味は、「交流」という内容が中心にとらえられている。しかし、レクリエーション協会としては、新宿区民のスポーツの「入門」という意味でとらえている。昨年度から障害者と健常者が一緒にできる種目の促進を進めている。さらに、子どもから高齢者まで楽しめる種目についても今後広めていき、スポーツ人口を増やしたいと考える。
- ・町会連合会として、直接行うスポーツ事業はないが、新宿シティハーフマラソンでボランティアとして大会をサポートしたり、各地域で開催されるコミュニティスポーツ大会をサポートしたりという形で、スポーツの普及に取り組んでいる。また、防災に力を入れている地域も多いため、防災に絡めた「防災運動会」などといった企画が出てくれば、スポーツを通して地域防災を考えるきっかけになるのではないかと考える。
- ・障害者団体連絡協議会では、新宿未来創造財団とともに、障害者と健常者が交流しながらスポーツを行うという取り組みを考えているところである。現段階では、フットサルを行いながらの交流事業を計画している。
- ・青少年育成委員会は、新宿シティハーフマラソンに各地区からボランティアを出して、スポーツ事業のサポートに取り組んでいる。また、平成28年2月11日に開催する新宿区主催のボッチャ指導員養成講座に、落合第一地区青少年育成委員会では10名ほど参加して、ルールを学び、普及のお手伝いをしていきたい。青少年健全育成を目的に障害者と健常者が一緒にできることを考えて、これからも取り組んでいきたい。
- ・小学校PTA連合会は、新宿中学校の体育館を借りて、保護者のバレーボール大会を近隣区に呼びかけて開催した。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて子ども達にどのような働きかけができるのかを考えている。また、東京都小学校PTA協議会は、いくつかの区が脱退している状況であるが、東京都全体の青少年の健全育成の増進のためにまとまっていかなければならないと考え、現在調整を行っている。
- ・保健体育の授業でダンスが必修科目になり3年目を迎えた中、女子中学生の体力が向上したというデータがある。また、ダンスを通してグループの輪が広がり、スポーツが苦手な人も参加して楽しむことができるので、学校教育にダンスを取り入れて行くことは有益であると考えている。
- ・新宿スポーツセンターが改修工事期間に入った影響で、現在は、新宿スポーツセンターにおいて

スポーツをする場の提供はできていない状況であるが、スポーツを「する環境」と「みる環境」を整えていこうという取り組みを行っている。「する環境」については、昨年度から新宿スポーツセンターにおいて、来てすぐ運動ができる環境整備として、トレーニングルームの充実を図った。「見る環境」については、レスリング、シンクロナイズドスイミング、野球のトップアスリートを招いて、子ども達にスポーツの楽しさを体験してもらい、スポーツのすそ野を広げる運動を行っている。今後も子ども達がスポーツをできる環境を整えていきたい。

- ・大学のジム施設を見ると、外国人の学生は、誰もが気軽にジムに通いスポーツを楽しんでいるのに対し、日本人の学生は、アスリートとして活躍しているような人しかジムに通っていないという状況がある。日本人は、アスリートではない一般の人がスポーツに参加するための敷居がすごく高い文化であると感じた。中学校まではスポーツをしていても、高校以降はスポーツをする人が少ない。若い間にスポーツに慣れ親しんでおかないと、基礎的な体力がつかず、高齢になった時には介護が必要になってしまうという懸念もある。

- ・平成27年度第27回東京都肢体不自由特別支援学校ハンドサッカー大会（平成28年2月13日開催）は、東京都内の全部の特別支援学校から生徒が参加する。ハンドサッカーは、重度の身体障害者が団体競技の一体感を感じられる数少ないスポーツ競技である。

- ・障害の重い子どもたちのスポーツをサポートしているが、現在、区内で車いすを利用できるスポーツの公共施設が少ない。例えば、新宿NPO協働推進センターの体育館ではワックスがはがれるという理由から車いすスポーツの利用が禁止されている。平成28年4月からは障害者差別解消法が施行されるので、管理される立場の方々には、障害者がスポーツをできる環境について、広くご理解と配慮をいただきたい。

- ・平成26年度の新宿区における成人の週1回以上のスポーツ実施率は52.9%で、平成27年度の目標値は54%である。スポーツ推進委員は、その目標値の達成に向けて、各地区でスポーツの振興を図っている。また、障がい者スポーツの普及、振興のためには、理解促進・普及啓発・推進体制の整備が必要であり、このような視点で、スポーツ推進委員、新宿未来創造財団の職員等がパラリンピック競技種目のボッチャの研修を受けており、今後特別出張所単位でボッチャの普及を図っていこうと考えている。

イ 各課での取り組みについて

・生涯学習コミュニティ課

平成28年度以降、成人向け、高齢者向けのスポーツを振興していく。30代、40代のスポーツ実施率がかかなり低いため、こういった年齢層を主なターゲットにしていきたい。そのためには大人と子どもと一緒にスポーツを体験できる企画が有効であると考え、現在企画を検討している。このほか子ども向けには、平成27年度から新宿区協働事業提案制度を活用して、子ども達がいろいろなスポーツを体験できるよう支援する取り組みを行っており、今後も引き続き実施していく予定

である。

また、東京オリンピック・パラリンピック気運醸成事業として、今年度からボッチャの体験教室を行っており、来年度も継続して行っていく。平成28年度以降はボッチャに加え、ゴールボールを広めていきたい。

都立戸山公園の箱根山地区の多目的運動広場については、東京都がこの土地を国から購入する契約が済んだということなので、今後、多目的運動広場をどう活用していくのか、東京都に対して区として要望を出していく必要がある。まずは、内部検討委員会を作り、今後、都に対する要望をまとめていく。内容がまとまってきた際には、ここにお集まりの皆様のご意見も伺っていきたくと考えている。

・新宿未来創造財団

新宿シティハーフマラソンについて、当日は10,000人を超えるランナーが参加したが、事故や救急搬送もなく無事に大会を終えることができた。これは、一般のボランティア1,023名の方にご協力いただき、皆様の支えがあったからこそであるので、実行委員会事務局代表としてお礼を言いたい。また、今回の大会から知的障害をお持ちの方を対象としたIDハーフマラソン、ID10kmの部が開催された。知的障害をお持ちの方が、一般の参加者と同じコースと一緒に走り、ルール等に違いがない中、ハーフマラソンの部では総合第2位と6位という好記録を残され、多くの方に感動を与えた。

また、新宿未来創造財団が取り組んでいる事業として、障害のある人とない人のスポーツ交流事業があり、3月から新宿コズミックスポーツセンターで、誰もが身近にできるスポーツ事業を始める。詳細は未定だが、平成28年度以降も継続的に取り組んでいく予定である。

新宿未来創造財団は、新宿コズミックスポーツセンターをはじめとする区内の多くの施設の指定管理者として、施設を管理しながら事業を展開している。平成28年4月から5年間新たに指定管理者として選定され、現在は、事業計画の最終的な調整を行っている。東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えているなか、この5年間は、区民のスポーツ環境の充実に力を入れていかなければならないと考えている。

・障害者福祉課

新宿未来創造財団が行う「障害のある人とない人のスポーツ交流事業」の実行委員として、事業を推進していくうえで、皆さんから情報を収集し、今後の事業に活かしていきたい。

・高齢者福祉課

体を動かすという視点では、要介護・要支援状態になることを防ぐための介護予防の取組みの中で介護予防体操等の事業を行っている。

また、区内には、高齢者が活動できる場として、シニア活動館、地域交流館といった施設が合計19館ある。ここでは多世代交流も重要なテーマで、高齢者が子どもと触れあい、元気を取り戻すことができるような介護予防の取組みを行っている。また、区の施設だけでなく、民間のスポーツクラブ等を高齢者に積極的に利用してもらうことによって、体を動かすことのできる環境の充実に図っていきたく考える。

・子育て支援課

青少年育成委員会は多くのスポーツ、レクリエーション活動を行っている。中学生、高校生もスポーツ大会で審判の補助をするなど、スポーツを通じた地域のコミュニティづくりにつながっている。また、青少年活動推進委員は、青少年の体験活動の充実や家庭の教育力向上支援を目的に、自然体験キャンプや農業体験などを実施している。さらに、区内に5か所あるプレイパークの活動を推進し、子どもたちが自由に遊べる場を提供している。

・健康推進課

新宿区ウォーキング協会と協力して、いきいきウオーク新宿を推進している。また、元気館を運営しており、子ども向けのプログラムを展開している。

ここ最近、糖尿病にかかる人が増えているというデータがあり、新宿区では糖尿病にならないようにするため、「野菜もう一皿、運動あと10分」というキャッチフレーズを区民に浸透させていこうとしている。

・みどり公園課

公園では、健康遊具の増設の要望が増えており、現在、増設を検討している。また、区内の公園の情報をホームページに載せようとして取り組んでいる。ホームページでは、皆さんが運動をするために公園に来るきっかけになるよう、遊具の紹介等を行っている。

・教育調整課

教育委員会は第三次実行計画に基づいて、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした、障害者理解教育の推進に取り組んでいく。具体的には、パラリンピック日本代表の方をお呼びして、ブラインドサッカーをはじめとした障がい者スポーツの体験事業を進めていく予定である。また、スポーツギネス新宿の推進として、小学校でバレーボールの円陣パスやリフティングの記録を、楽しみながら競い合うという取り組みを行っている。さらに、中学生版のスポーツギネス新宿として、ダブルダッチを進めていく。平成27年度は、幼稚園1園、小中学校7校がオリンピック・パラリンピック教育推進校として指定を受けたが、今後は区内の全校を対象に展開していきたい。

(4) 障がい者スポーツについて

・障がい者スポーツについては、知らないことがたくさんある。ボッチャ、ハンドサッカー、ゴールボールなどの話が出たが、各々のルールなど詳細はよくわからない。従って、障がい者スポーツを知ってもらう機会を作らないと、議論してもなかなか進んでいかないのではないかと。事業を実行していく側の組織づくりもまた、重要になってくる。

・パラリンピック種目の競技ができる方に対しては、スポーツをする環境がある程度整えられていると思う。しかし、スポーツをすることが難しい重度障害者に対して、どう対応していくかが課題である。区内には知的障害、重度障害を持つ方が集う施設がある。そういったところで、ス

スポーツ推進委員の方々に指導者として、スポーツ体験事業を企画していただくことによって、スポーツ実施率の向上につながっていくのではないかと。

- ・パラリンピック種目をもっと知ってもらうために、区ではパラリンピックの正式種目であるボッチャの普及を行い、ルールを覚えるための講座を開いたり、用具の貸出を開始した。実際にボッチャの用具を貸してほしい、講座を開いてほしいといった要望も来ているので、障害者にスポーツを体験してもらえる機会を多くつくっていききたい。

- ・パラリンピック種目の啓発のため、パンフレットやパネルを作成して区民の方に競技を知ってもらいたいと考えている。競技内容を知っているか知らないかでは、その種目の普及の程度が違う。パラリンピック種目をもっと身近に感じてもらえるようなものを作成したい。

- ・新宿未来創造財団では、ボッチャをはじめとする障がい者スポーツが定期的にできる場の提供を、スポーツ推進委員等の協力を得ながら進めていく。様々な人が参加しやすいよう、時間帯を考慮したり、周知方法を工夫するなどして、取り組んでいきたい。

- ・障がい者スポーツという言い方は見直すべき。障害者のスポーツとして区別することなく、普及していければよいのではないかと。

- ・既存のスポーツを、障害者もできるようにアレンジすることを今後検討していきたい。

- ・パラリンピック種目を体験できる場の提供と、重度障害者ができるスポーツの場の提供は、施設面や人材面を考慮すると、一律で進めていくのは難しいのではないかと。それぞれの団体でできること、できないことを整理して、取り組んでいく必要があると考える。

- ・車いすダンスと視覚障害者のダンスを体験したいという方がいれば、体育協会ではいつでも対応が可能なので、ご連絡いただきたい。また、場所を用意していただければ指導員も派遣できる。

- ・障がい者スポーツ振興のゴールは、2020年の東京オリンピック・パラリンピックではない。この4年間でいかにスポーツ環境を整備していくかが大切である。また、障がい者スポーツの普及に当たっては推進体制の整備が不可欠であり、ソフト面とハード面の両方の整備が大事である。

- ・障害者スポーツを広げていくためには、まずは指導者に競技を知ってもらうことが大切である。新宿区は多くの学校を抱えているため、学校教育の中に障がい者スポーツを導入するとよいと考える。教員を対象に障がい者スポーツについて学んでもらい、それぞれの学校に持ち帰って、フィールドバックすれば広く浸透するのではないかと。

- ・知的障害者が参加できるような種目も考えていただきたい。

(5) その他 意見交換

- ・障害のある人とない人の交流事業の企画に、是非ハンドサッカーを加える検討をしてほしい。

- ・新宿レクリエーション協会の加盟団体が、白銀公園で、みどり公園課の協力のもと野外遊び体験広場・野外遊びフェスティバルというイベントを年に8回行っている。そこでは10種目を展開しており、中でも人気がある種目は駆け足凧揚げ、木登り、パチンコ、リヤカーである。こういう種目ができる公園がもっとあれば、子ども達にスポーツをもっと親しんでもらえるのではないか。

- ・土曜日に小学校、中学校施設を借りて、スポーツ交流事業に参加している。しかし、最近では学校のクラブ活動などで土曜日に学校施設が使われることが多く、なかなか利用できない。他に利用できる施設がないのかお聞きしたい。

→基本的に学校施設は、空いていれば使わせてもらうという形をとっている。新しく施設をつくることは現状難しい。施設の空き状況の連絡などを情報共有して、スポーツ交流事業を活発にできるよう協力したい。

- ・中学校で武道とダンスを積極的に推進するための参考として、どこの学校で武道とダンスの授業を取り入れているのか知りたい。

- ・スポーツを「する環境」「みる環境」に加えて、「支えるスポーツ」と「育てるスポーツ」という視点も持ってほしい。

- ・総合型スポーツクラブの設置を着実に進めてほしい。

- ・スポーツ環境整備方針が策定されたのは今から3年前だが、現状では進んでいないものが多く、もっと加速して進めていかなければならない。新宿区は、2020年のオリンピック・パラリンピックメインスタジアムである国立競技場を抱えている恵まれた自治体であり、長年抱えている問題を、スポーツを通して解決できる大きなチャンスである。外国人観光客の人数は、特別区の中でも最多であるのに、観光客とスポーツを絡めた政策がない。住んでいて当たり前になっており、せっかくの新宿の魅力を活かそうとすべきである。

学校施設に空きがなく、利用できないという話があったが、学校施設を区民の共有施設と捉え、ある時間は学校が使用し、それ以外の時間は区民が自由に使えるという発想があってもよい。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、「アクション&レガシープラン」を策定し、東京オリンピック・パラリンピック開幕までの準備の指針をまとめ、大会後も国内外にレガシー（遺産）を残すことを計画した。そこで、新宿区版のアクション&レガシープランを策定し、新宿区がこれからどんな行動をして、何を遺産として残していくのかということを考えて、政策の推進を加速させていけるようにしたらどうか。新宿が変われば日本が変わるぐらいの意気込みをもって、2021年以降、誰もが住みたいと思うまちにするための議論が展開できればよい。

4 平成28年度スポーツ環境会議について

- ・平成28年度も引き続き皆様に委員の継続をお願いしたい。
- ・平成28年度の会議については、日程が決定次第お知らせする。
- ・新宿区の組織改正により、スポーツ環境会議の事務局の課名は「地域振興部生涯学習スポーツ課」となる。